

(写)

陳情第41号

戦後80年に、非核平和都市宣言の市として「札幌空襲被災地の碑」を建立することを求める陳情

令和6年12月5日 受理 財政市民委員会
令和7年1月31日 付託

提出者

札幌市東区

札幌空襲を記憶する会

代表者 代表 林 恒子

(要 旨)

2025年（令和7年）の戦後80年を期し、1945年（昭和20年）7月15日札幌空襲の被災・着弾の地であり、札幌空襲で唯一人の被弾死者を出した「丘珠」をはじめとして、「苗穂」「白石」「手稲」に「札幌空襲被災地の碑」（仮称）を建立することを陳情いたします。

(理 由)

本会は、1945年（昭和20年）7月15日の札幌空襲の記憶を継承すべく、活動を行ってきました。来年2025年（令和7年）は、戦後80年の年となりますが、年々戦争を体験した市民も少なくなり、札幌に空襲があったことが次世代に記憶として継承されづらくなっています。

本市では「新札幌市史」や「札幌市平和バーチャル資料館」等、記録は残していますが、関心のある個人が開き、読むだけで、広く市民に「私たちの町にも空襲があった」と知ってもらうことは困難です。

そこで、被弾・被災の「地」に、小さくとも「碑」があることで、人びとの営みの中で記憶が継承されるのではないかと考えました。特に、次世代への継承が重要です。札幌市の児童・生徒が学ぶ「副読本」や「教科書」にほとんど記述は無く、札幌空襲を知る教師も少ない状況を、本会は大変危惧しております。生活科や社会科の学習指導要領では、「地域を歩く」活動が位置づけられておりますが、地域を歩いても「ここも戦場だったのだ」と実感できる碑はありません。子ども達が、公園に、道端に、札幌空襲の「碑」を発見し、それをきっかけに戦争について学習して、平和の尊さを実感する学びができれば、素晴らしいことだと思います。

ぜひ、非核平和都市宣言の市の事業として、碑を建立していただきたく陳情いたします。